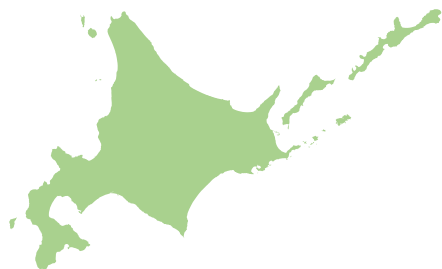




その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

資料 1

地域医療構想等に関する説明会



令和6年7月24日（水）

北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課

1 地域医療構想等について

- (1) 地域医療構想の概要と考え方
- (2) 地域医療構想等に関する国の動き
- (3) 地域医療構想等に関する道の動き

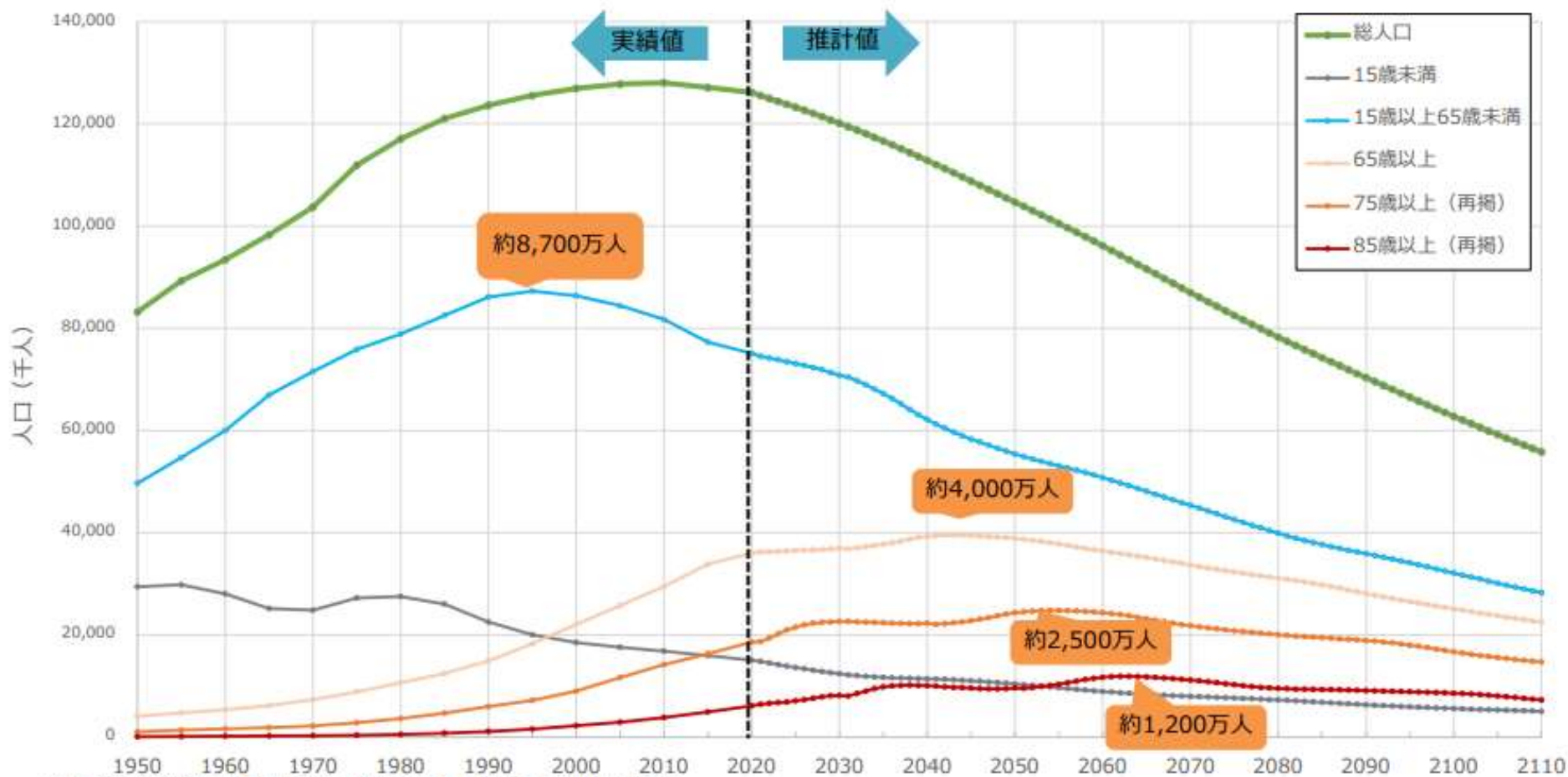
2 北海道地域医療介護総合確保基金（医療分）を活用して実施する事業について

- (1) 事業スケジュールについて
- (2) 令和6年度の主な事業

- 地域医療構想は、**中長期的な人口構造や地域の医療ニーズの質・量の変化**を見据え、**医療機関の機能分化・連携**を進め、良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制の確保を目的とするもの。
 - ① 都道府県において、各構想区域における**2025年の医療需要と「病床数の必要量」**について、**医療機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）ごとに推計し、地域医療構想として策定。**
 - ② 各医療機関から都道府県に対し、現在の病床機能と今後の方向性等を「**病床機能報告**」により報告。
 - ③ 各構想区域に設置された「**地域医療構想調整会議**」において、**病床の機能分化・連携に向けた協議**を実施。

人口動態① 2040年頃に65歳以上人口のピークが到来

- 我が国の人口動態を見ると、現役世代（生産年齢人口）の減少が続く中、いわゆる団塊の世代が2022年から75歳（後期高齢者）となっていく。
- その後も、2040年頃まで、65歳以上人口の増加が続く。



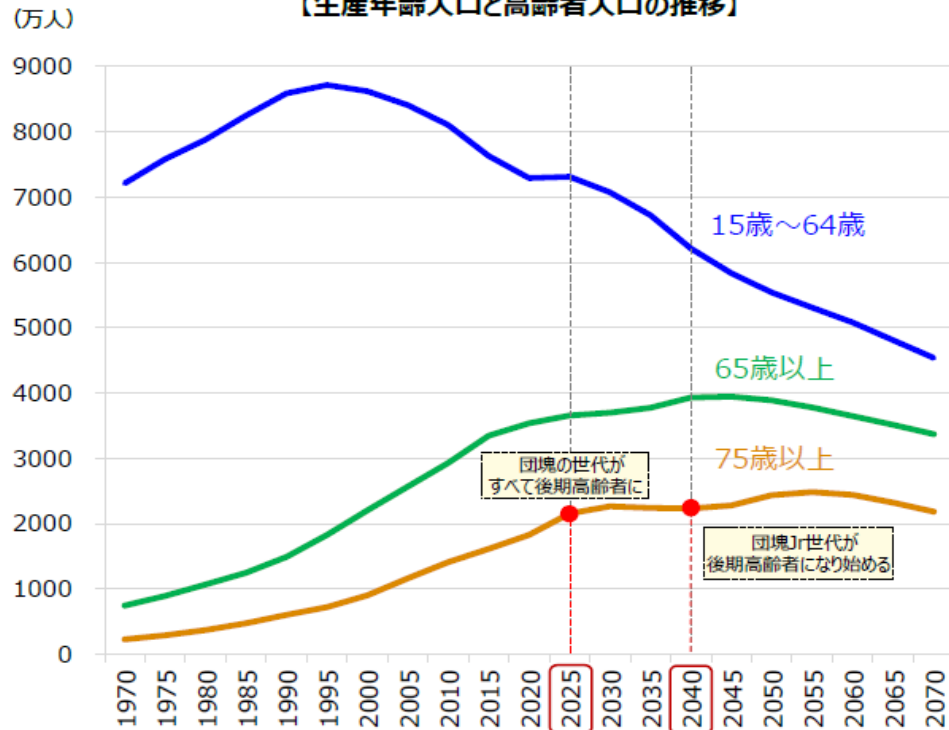
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（令和5年推計）

※ 2020年までは総務省「人口推計」、2021年以降は推計値。

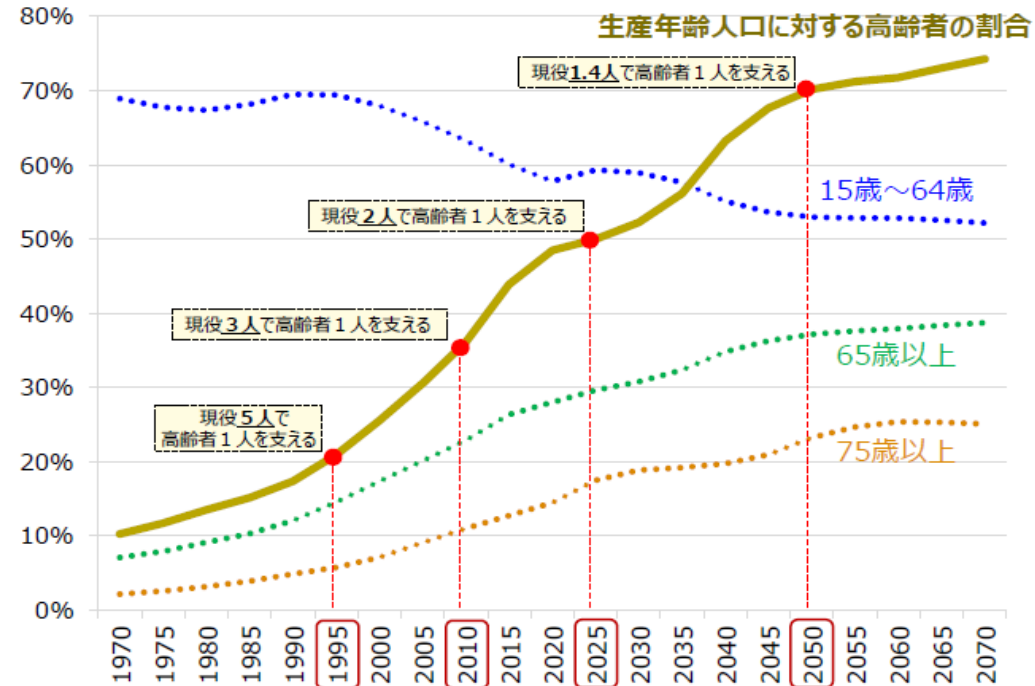
今後の人口の見通し

- 2025年以降も後期高齢者は引き続き増加が見込まれる一方で、生産年齢人口は一貫して急速な減少を続ける。
- その結果、今後も高齢化率は上昇し続けていくことから、これまでの支え合いを前提とすると、社会保障制度の支え手たる現役世代の負担がより重くなることを見込まれる。

【生産年齢人口と高齢者人口の推移】



【生産年齢人口と高齢者人口の構成割合】

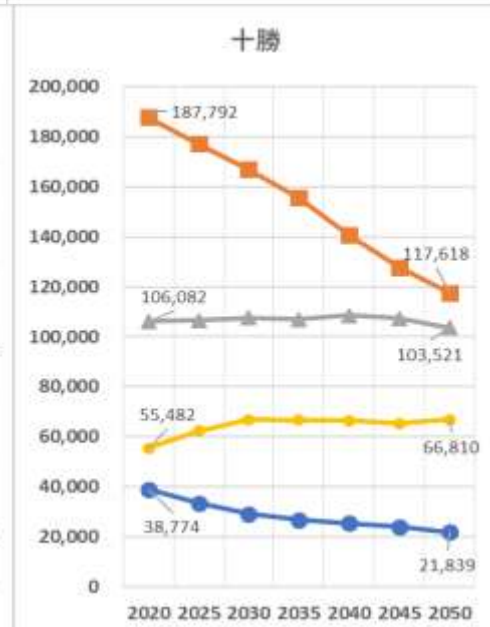
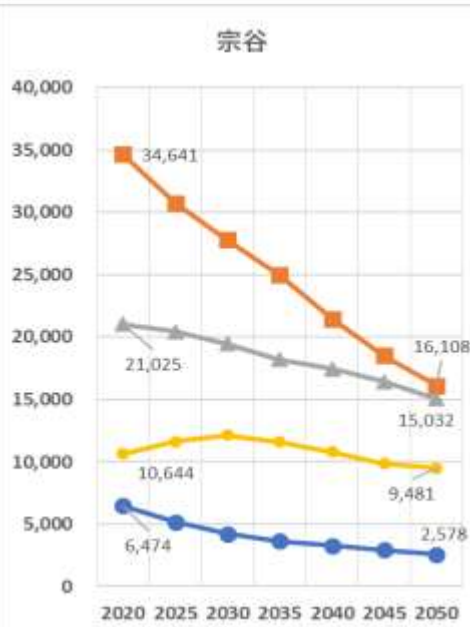
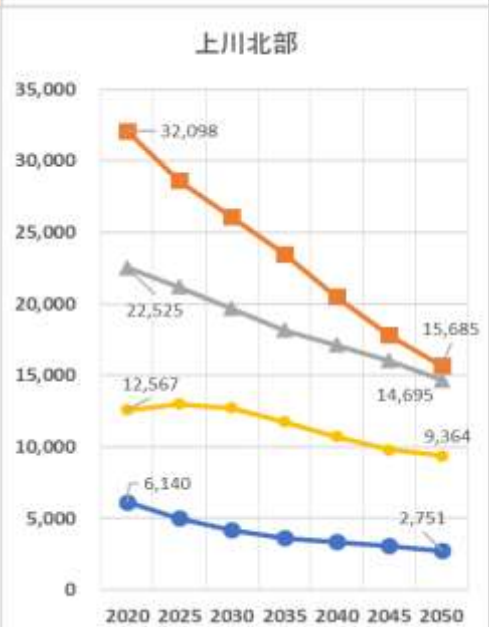
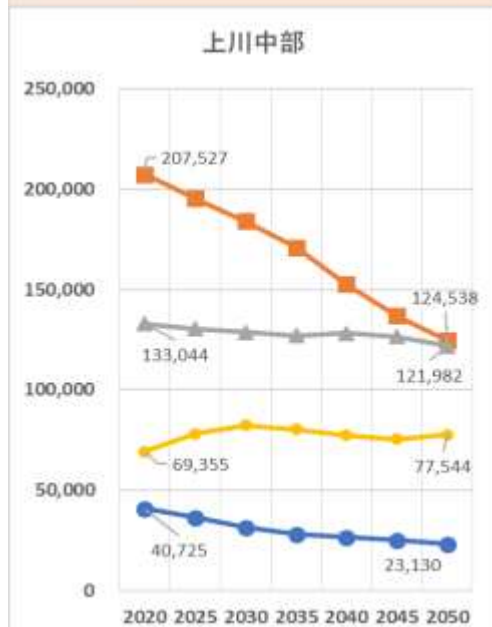
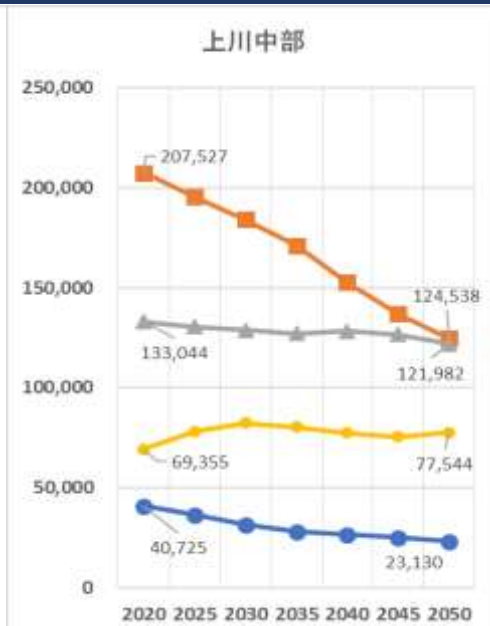
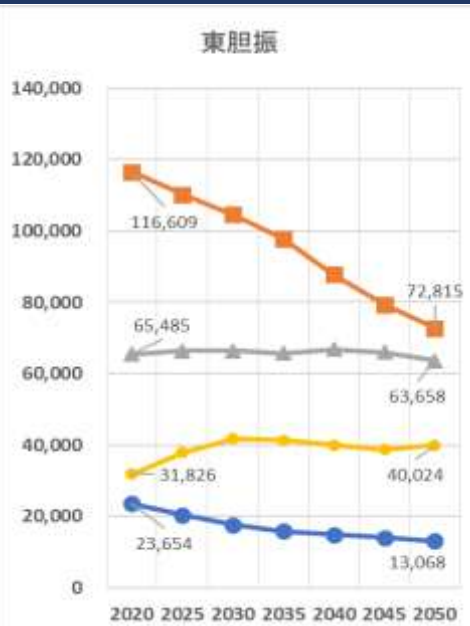
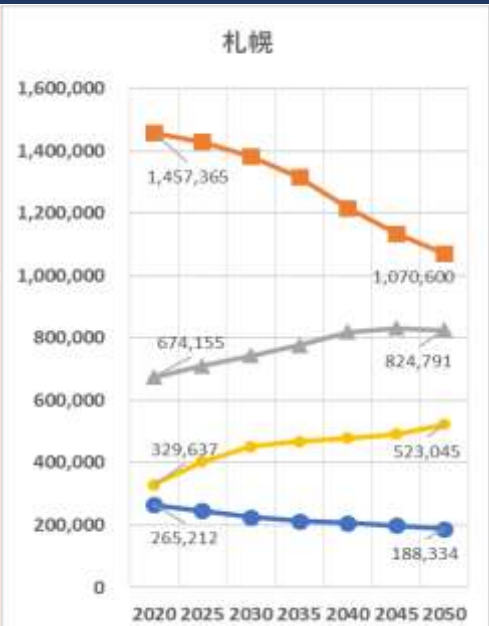


(出所) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 (2023年推計<出生中位・死亡中位>)」
 (注) 生産年齢人口に対する高齢者の割合は、〔65歳以上人口 / 15歳～64歳人口〕

【今後の方向性】

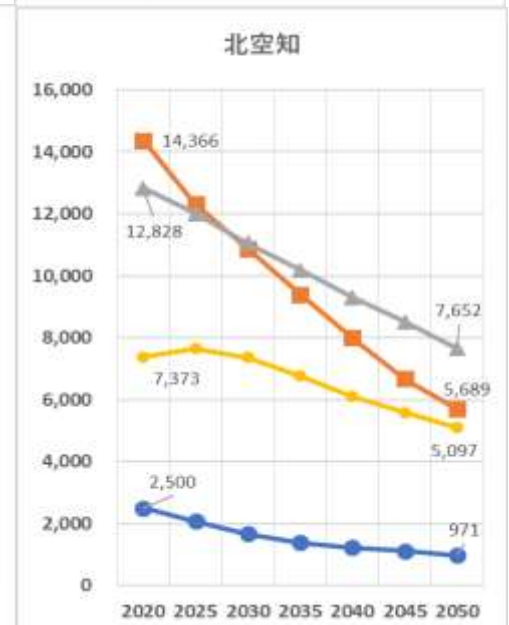
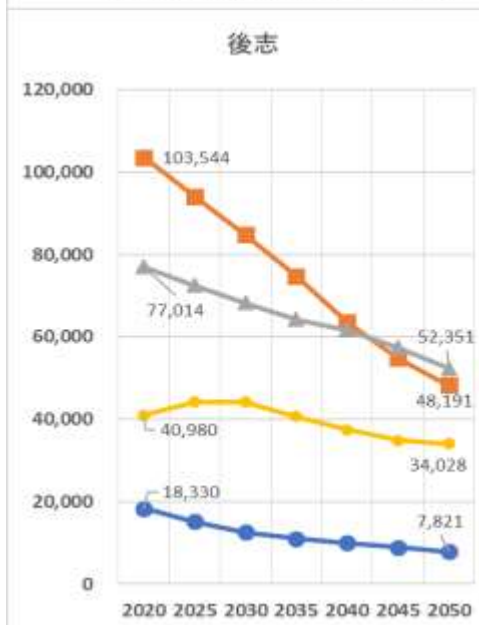
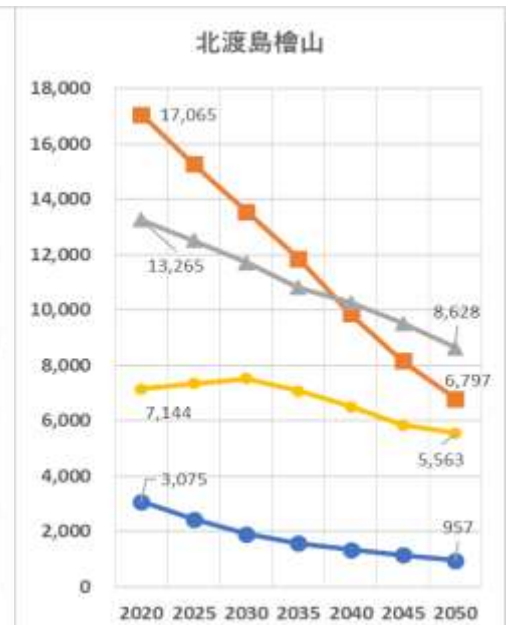
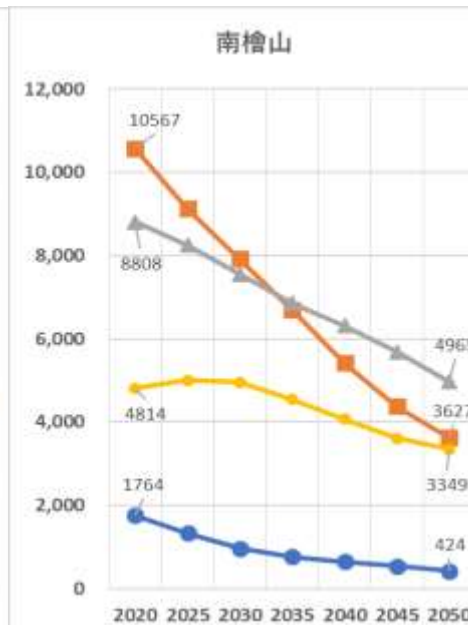
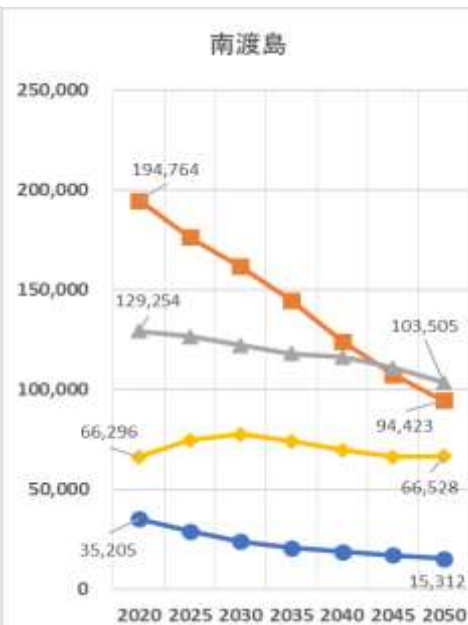
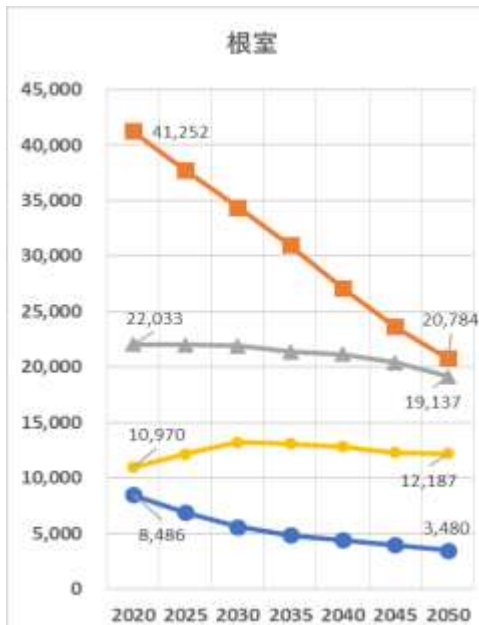
- 現役世代の負担は今後も一貫して増大することを見込まれることを踏まえ、社会保障の持続性を確保する観点から、引き続き、女性や高齢者の就労促進を進めるとともに、全世代型社会保障を構築する観点からの改革に取り組むことが必要。

人口の推移・推計（構想区域別・年齢区分別）



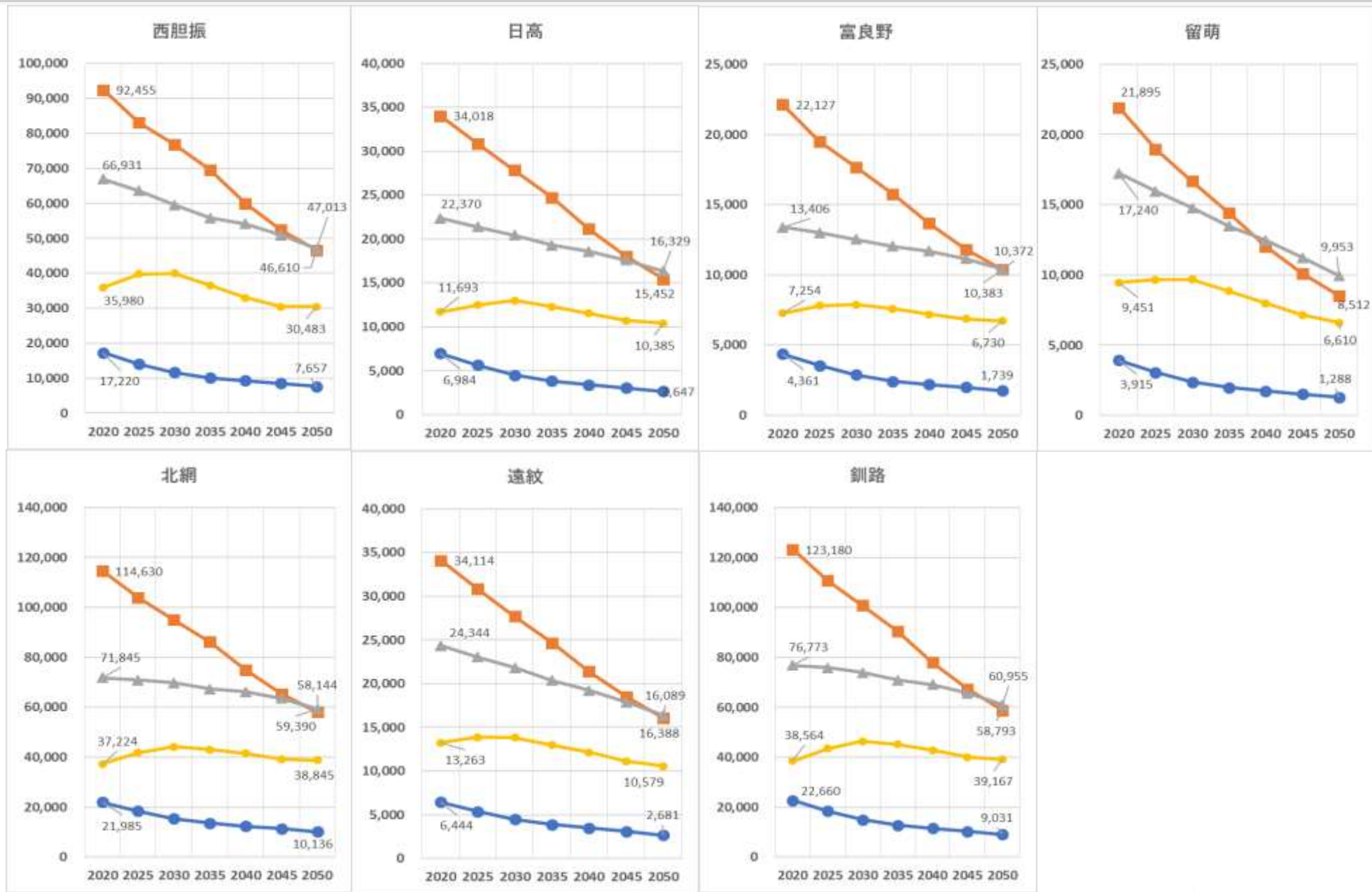
● 0~14歳 ■ 15~64歳 ▲ 65歳~ ● (再掲) 75歳~

人口の推移・推計（人口区分別）



● 0~14歳 ■ 15~64歳 ▲ 65歳~ ● (再掲) 75歳~

人口の推移・推計（人口区分別）



● 0～14歳 ■ 15～64歳 ▲ 65歳～ ● (再掲) 75歳～